



プロジェクト名称

アジア学生とのサステナブル都市協働提案6

活動状況報告 & 活動写真など 【活動期間: 2012年10月1日～12月31日】

活動概要と目的

現在アジア諸国では急激な経済成長による急速な発展が進んでいる。しかしその反面、都市基盤整備が追いついておらず、環境問題、公害問題など様々な問題が起きている。わたしたちのプロジェクトの目的はこの諸問題に対し、サステナブル(持続可能)な都市を形成するためにアジア工科大学院大学(以下AIT)の学生と協働でワークショップ形式による意見交換を行うことで、解決への道を模索・提案することである。

本プロジェクトは2006年に開始され、水系、廃棄物系、交通系、エネルギー系と4つのテーマに分かれており、今期は情報発信の期間として、これまでにヒアリング、施設見学、共同調査、資料提供等で協力して頂いた自治体、企業、及び有識者に対してサステナビリティレポートの配布と説明訪問を実施する。

サステナビリティ レポートに成果を まとめる

本プロジェクトにおけるサステナビリティレポートの位置付けは、2年間の活動の総括と対外的な情報発信である。

第5期で東京都・バンコクに関する廃棄物問題のサステナビリティレポートは完成した。将来このような情報が必要となったときに、いつでも利用できる所産として保持できる。

アジア学生との
サステナブル都市協働提案
Sustainability of Urban Infrastructure in Asian Cities

サステナビリティレポート
～廃棄物系インフラについて～



産業界、官庁、学識者に対し
情報発信・交換

STEP 3	■ WONGPANIT (タイ民間企業)	■ BMA(タイ)	■ リサイクルバンク(タイ) ■ AIT(タイ)
	■ 産官学交流連携会		
	■ 環境整備公社	■ 地球環境シンポジウム	
STEP 2	■ 東京スーパーエコタウン	■ 杉並区	■ ISOシンポジウム ■ エコアクションポイントPJ
	産	官	学
STEP 1			

STEP2まで完了!

活動の足跡

7/23	SD研究会	発表
8/8	杉並区役所	発表 & ヒアリング
8/10	(株)Re-tem	発表 & ヒアリング
9/13,14	京都地球環境シンポジウム	発表
10/31	東京環境公社	発表 & ヒアリング
11/10	ISOシンポジウム	発表
11/23	エコアクション・ポイントpj	発表
11/21-23	MJIITシンポジウム	発表



ISOシンポジウム

学

学外に対する発信として、作成した廃棄物系サステナビリティレポート(日本語版・英語版)を配布し情報発信及び議論を行う。具体的な情報交換の内容は技術・マネジメント、集団回収・市民協働・行政介入、タイに対する廃棄物処理技術転用などと多岐にわたる。

そして学外情報発信である今期の施設見学を紹介した。東京スーパーエコタウンの株式会社リーテム、杉並区役所、地球環境シンポジウム、埼玉県環境整備センターを説明した。前者はプレゼンを行い意見交換を行った。

■ 学生の皆さんへ身近なごみ問題を紹介し理解を呼びかける

環境強化週間初日の11月10日に行われたISOシンポジウムに参加した。ここでは環境系学生団体や環境マネジメント演習履修者を中心に、身近なゴミの分別の必要性、今年の活動内容について発表した。**今期は情報発信の年であり、ISOシンポジウムは学内発信の一つという位置づけ**である。今回は企業でなく学生に向けた発表ということを熟慮し発表テーマ、スライド構成を決定した。一方的に発表するのではなく、聞き手に得るものがあるように身近に行っているごみの分別についての内容とした。

まず自分たちの国である日本では人々の減量への意識改革により分別が行われ、可燃物は焼却、不燃物は破碎処理、資源ごみはリサイクルされて再資源化がなされる。これによって、一人一日あたりのゴミの量が1989年では1620gであったのに対し、2010年には1090gに減量する事ができた。しかし日本の廃棄物最終処分場は残余容量が年々減少しており、残り50年で飽和してしまうという現状を抱えている。それをふまえゴミの分別の必要性を発表した。

さらに、私たちが現地の学生と共に活動している発展途上国タイでは急激な経済成長と共に、廃棄物量は増加している。しかし、行政も市民もごみの分別意識が低く、廃棄物処理技術の整備がなされていない。分別されず排出された廃棄物は中間処理もされず、そのまま最終処分場に野積みされる。そのため、最終処分場の逼迫、環境問題、衛生問題、労働問題など様々な問題が起きている。

これらの現状を踏まえ、私たちは廃棄物問題解決に向けてアジアの学生と協働で議論し、サステナビリティレポートを作成する。

今回は夏期休暇に行った行政や企業へのヒアリングとは違い、環境について興味はあるが、廃棄物に対しての専門知識があまり無い学生に対しての発表であった。そのため、伝え方の工夫が必要であった。専門的な言葉を避けることや、難しい言葉には説明を加えることなど、わかりやすく、より問題意識を持ってもらう発表を行った。今まで、学生に伝えるプレゼンは少なかったため、各自が伝え方を考える良い機会になった。しかしながら、質疑応答では相手の質問の意図を読み取れず、聞き手にわかりやすい回答はできないなどの課題は残った。大人数への発表であったため、学生から直接、意見を聞くことはあまりできなかった。そのため、エコアクションポイントで再び発表することで、学生から直接、意見が得ることが必要であると感じた。



シンポジウムでの発表の様子

活動状況報告 & 活動写真など【活動期間:2012年10月1日～12月31日】

■ 公益財団法人 東京都環境公社

官

10月31日に東京都環境公社を訪れ、意見交換を行った。東京都環境公社では東京都が行う廃棄物分野の国際協力事業を担当しており、東京都でも私達と同様に、バンコクと廃棄物等の環境分野で交流・協力を行っている。

意見交換会では、私たちからは活動内容と分散型廃棄物処理システムの提案をした。相手方からは、昨年度実施なされたバンコクでのワークショップのお話を伺った。東京都とバンコク都の行政同士の立場で活動されている環境公社さんのお話は、幅広く、深い視点で圧倒されるばかりで、普段、東京で学生として生活している私達にはバンコク都が構想している、廃棄物処理の理想としているモデルや方針などを知ることは容易いことではない。それらの貴重なお話を聞くことができ参考になった。

得られたこととしては、**私たちが問題であると捉えていたことが本当に問題であるのか**という、根本的な課題に気づかされた点がある。私たちは、文化の違いや国の特色を理解し、その土地にあった方法を検討してきたつもりであったが、**日本人的視点**を捨てていかなかったのかもしれないと感じた。私たちが、問題と捉えること、私たちが目指す都市の形がアジアの都市にとっても問題、理想となりうるのか再検討する必要があると改めて感じた。

■ エコアクションポイント制度への参加

学

11月12日(月)～17日(土)に大宮キャンパスにて一般学生の環境への関心の向上を目的としたエコアクションポイント制度が実施された。この制度は、経済的インセンティブ(=ポイント)で、環境配慮活動・行動への参加を後押しする制度であり、多くの環境系団体・演習の学生がイベントを企画し一般の学生の活動への参加を促した。

11月23日に5号館5階環境システム学科ゼミ室 5511教室にて学生プロジェクト、エコアクションポイントプロジェクトを通じて**アジアのゴミ問題**を知っていただきたいと思い発表した。

参加者に対して国内と海外(アジア)のごみの現状についてプレゼンテーションを行い、**分別をすることの大切さ**を中心に伝えた。また、アンケートを取り、現在の分別状況とプレゼンテーションを聞いてからどのくらい分別の大切さを理解できたかを図らせていただいた。



アジアのゴミ問題について知ろうにて

今後の活動計画、目標、意気込みなど

ワークショップに向けて

今期の活動を通じて、各訪問先(東京スーパーエコタウン、(株)Re-tem、東京環境公社等)と廃棄物問題における有益な情報交換ができ、またつながりを持てた。今後はワークショップに向けて3年間活動してきた日本とタイの廃棄物問題について再度情報をまとめ、英語によるプレゼンテーション・ディスカッションの準備をしていきたい。